

はばたき

大分大学教育福祉科学部
附属小学校便り No. 4
平成27年10月16日

～国や県の動向と附属小学校の学習～

指導教諭 山田眞由美

前回前々回と附属小学校で現在取り組んでいる「英語力の向上」「フリートーク」について、お知らせいたしました。今回は国や県の動向を踏まえながら、附属小学校で現在行われている授業についてお知らせします。

「入試が変わる、授業も変わる」

今の中学1年生が大学入試を受ける時から入試制度が大きく変わる予定でそれに先駆け、大分県内の高校入試が今春から、そして、附属中学校でも来春の選抜試験のあり方を変えるという旨の内容がHPにて示されました。このように入試制度が変わる背景には国の教育施策の転換が大きく関わっています。

アメリカのある研究者は今後10～20年程度で約47%の仕事が自動化される可能性が高く、子ども達の65%は今存在していない職業に就くのではないかという旨の発表をしています。そして、昨年11月に当時の文部科学大臣は「現在の児童生徒は、厳しい挑戦の時代を生きていくことになる。だから、自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力を身に付けるために、教育のあり方を一生深化させる必要がある。」と述べました。めまぐるしく変わる世界情勢の中、今までのような「覚えたものを正確に再生する力」から、「主体的に課題を見付け、他者とともに考え、判断し、表現する力」がこれから必要となってくるのです。そこで、文部科学省は教授型の授業から児童生徒が主体的に課題を見付け、思考・判断・表現を繰り返す「アクティブラーニング(能動的・課題解決的学習)」型の授業への転換を求めています。大分県の入試制度も知識・理解を問うものだけではなく、「活用する力」を

問うものに比重を移したのもこのような背景によるものです。

このような国や県内の動向をふまえ、本校では今年度から中学校とも協議を持つ中で、学期に1回のたしかめテスト及び、年に1回の小中合同テストから、単元毎に学力の定着状況を把握できる単元テストと学期に数回活用力を問う活用テストを組み合わせるよう行いました。単元テストは全国的なシェアのあるものを採用していることから、児童の学力を客観的に把握できる良さがあります。また、補習についても6年生の担任のみでの対応から、全教職員で対応し児童一人一人にきめ細く指導できるように変えています。(詳細下表)

さらに、運動会終了後より4年生以上は活用力を問う授業に対応した難易度の高いテスト問題を取り入れながら子供たちの学力の向上を図っていくよう考えています。

	平成26年度	平成27年度
テスト	たしかめテスト (学期に1回) 小中合同テスト (年1回)	単元テスト(年15～20回) 応用問題テスト(年5回) B問題対応テスト(年2回) 応用力を鍛えるチャレンジシート (2学期より宿題として活用)
補習	担任が行う (附属中の過去の入試問題から個人で問題作成)	全教職員で行う (附属中の過去の入試問題) (豊府中の過去の入試問題) (全国学力テストのB問題)

ただ、テストを変えただけでは本末転倒です。本校では、本年度よりアクティブラーニングを積極的に授業に取り入れています。最も変えたのは国語科の授業です。今までの、教科書を段落に分けて主人公の気持ちを読み取ったり、要点をまとめたりする授業から脱却し、目的を持って図書館の本や新聞などを活用する授業へと変わってきています。児童が教科書以外の本を持って帰って読むようになっているのはこのためです。



教科書以外の本を活用した
国語科の授業の様子

現在このアクティブラーニングに課題を抱えている学校が全国的にも多いのですが、我が附属の児童はとにかく学ぶことを厭わず、主体的に取り組む姿勢も高いので、ますますその力を発揮してくれています。

このような児童の姿は、外部の方からも評価を得ています。9月の上旬に県内の教員対象の研修会が本校で実施されましたが、国語科のアクティ

ブラーニングを参観した教員の多くは、本校の児童が主体的に学ぶ姿を見て、自分もこのような授業をしてみたいという感想を持っていました。

2学期になって、学校評議委員の方々や大分大学の先生及び大分県教育委員会職員の方々の学校訪問があり、本校の教員の指導力と児童の学びの様子をじっくり観察していただきましたが、「児童も先生も生き生きしていてカッコいい。本当に、県内の先進的なモデル校ですね。」と、非常にうれしい言葉をいただきました。特に、本校の学校評議委員で中学校の後援会長でもある亀井委員は、「中学校に無言掃除や英語の授業を見に行くなど本当に良い交流活動を行い、児童がとても成長していると聞きました。とても良いことですね。最先端の教育をどんどん取り入れているのも今の時代に合っているし、このすばらしい附属の児童をさらに鍛えて下さい。」と、おっしゃって下さいました。同様のご意見を、附属小学校OBで現在佐伯教育事務所長の米持委員や、附属中学校OBで現在別府市教育長



中学校の英語科授業見学の様子
英語で会話も交わしました。

の寺岡委員からもいただきました。また、学校評議委員の高橋委員は、「地域の方（日頃は辛口の方）から、最近、附属小学校の児童の挨拶がとても良くなったと褒められました。私も毎朝、交通指導に立っていますが、挨拶が本当に良くなっています。」と、児童の学校外での様子を高く評価して下さいました。各ご家庭での協力があったことだと深く感謝しております。

さらに、前回お知らせしました外国語活動についても、スーパーアドバイザーの池田委員（英語塾経営者）や中学校の英語科教員の方々からも、本校の教員の指導力の高さや外国語を通してコミュニケーションを図ろうとする児童の姿（「学校・学級全体にすごく温もりを感じます」）を高く評価していただきました。

ただ、私たち附属小学校教職員は、満足はしません。我が附属小学校の児童は、世界に目を向けてこれからの新しい日本を切り開いていく力を持っていると確信しています。この児童の自らを高めていこうとする力を最大限引き出せるよう、私たち教職員集団は外に目を向け、もっと学び、切磋琢磨し合うことで、教師力・学校力を更に高め、児童に還元していかなければならないと考えています。

お知らせ

【保護者からの緊急連絡の方法について】

児童の事故や災害などの命にかかわる緊急な連絡が必要な場合に対応できるように、学校用の携帯電話を用意しました。夜間や休日等に緊急な連絡が必要で、小学校の電話番号にかけてもつながらない場合にのみご利用ください。緊急の連絡を受けた場合は、関係者に連絡し、対応いたします。

【 緊急電話番号

】



外国語活動の様子
英語だけで会話を続ける様子に圧倒される教育委員会職員

